

大学の世界展開力強化事業 構想概要 岡山大学

【構想の名称】(タイプA-I)

東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム

【構想の概要】

岡山大学、吉林大学、成均館大学校が、アジア共通の価値観形成と次世代の中核的人材育成を目指し、深い伝統的な教養をもったアジアクラット(アジアの共通善に資する地域行政、民間組織の指導者)、地域医療をリードする医療人、3国の協業をリードできる企業中堅幹部候補等の輩出を目指す。同時に、東アジアの共通教育システムの構築を目指す。

■ プログラムの目的・養成する人材像

アジアを舞台に活躍できる地域人、企業人とアジアクラットの育成

国際的な視野を持ちながら、同時に地域の文化に精通したアジアクラット、医療、環境、エネルギー、循環型社会の構築などの領域でリーダーシップのとれる人材、技術開発、生産、販売のすべて面で3国の協業をリードできる企業中堅幹部候補を育成する。

〈吉林大学での国際シンポジウム〉



■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

1 東アジア共通の教育体系確立

海外出張講義、3国共通講義、共同ワークショップ(人文・社会系、教育系)の充実を通じて教育方法を相互に調整・改善し、最終的には東アジア共通の教育体系の確立を目指す。また、大学院教育において英語のみによる教育科目を新たに開設する(自然科学系)。さらに、ダブルディグリー、ジョイントディグリー制度を導入し、派遣先大学の指導のみに依存せず、複数大学による共同指導を実質化して教育の高度化を図る。

2 課題解決型の人材育成

価値観、文化の相違を越えて、日中韓で共同でプロジェクトを実現できる、また共通善の実現に貢献できる人材を育成するため、3国の学生が一堂に会し議論するセミナーを設ける。また、日中韓に共通する課題(少子高齢化、環境問題、医療、省エネの技術開発や社会システムの開発、文化共生、循環型社会)に対応した課題解決型の演習、地域の自治体や企業との協働教育プログラムを取り入れる。

3 成績管理、単位の相互認定制度

共通教育を検討する委員会を設け、評価方法や講義の内容、単位の相互認定に関し「ラーニングアグリメント」を締結する。さらに、ピアレビュー制度を導入し、授業の質を高めると同時に、相互に教育の経験を交換する。

〈ダブルディグリー協定締結〉



■ 教育内容の可視化・成果の普及

国際コンソーシアム評議会による評価制度

透明性、客観性の高い厳格な成績管理(コースワークを重視したカリキュラムの構成、GPAの導入や教員間の相互チェックなど)で先進的な取り組みをしている岡山大学の授業評価システムを基礎に、日中韓共通の評価システムを構築する。また、欧米の教育有識者を含む国際コンソーシアム評議会により、質の保証が実質的なものになっているかを定期的にチェックする。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

1 日本人留学生の送り出し

吉林大学、成均館大学校に岡山大学のランチオフィスを置き、研究テーマのマッチング、留学手続きなどがスムーズに行われるよう支援する。また、留学予定者に対する外国語教育を強化する。

2 中国人、韓国人留学生の受け入れ

吉林大学、成均館大学校の岡山大学ランチオフィスでワンストップサービスを実現する。また、3校間で利用できるe-learningシステムを構築する。岡山大学内では、チューター制度、ランゲージカフェを通じたサポート体制を充実させる。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

岡山大学からは、毎年吉林大学、成均館大学校に長期(1年)各5名、ジョイント・サマーセミナー各15名を含む69名の院生、学生を派遣する。

○ 外国人留学生の受け入れ

吉林大学、成均館大学校からは、毎年長期(1年)各5名、ジョイント・サマーセミナー各15名を含む67名の院生、学生を受け入れる。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	20	69	69	69	69
学生の受入	12	67	67	67	67

大学の世界展開力強化事業 取組実績 岡山大学

【構想の名称】(タイプA- I CAMPUS Asia Pilot Program)

東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム。

【プログラムの目的・養成する人材像】

国際的視野と地域の文化に精通した公務員、医療、環境、生産などで3国の協業をリードできる中堅幹部候補を育成する。

【構想の概要】

岡山大学、吉林大学、成均館大学校が、アジア共通の価値観形成と次世代の中核的人材育成を目指し、深い伝統的な教養をもったアジアクラット(アジアの共通善に資する地域行政、民間組織の指導者)、地域医療をリードする医療人、3国の協業をリードできる企業中堅幹部候補等の輩出を目指す。同時に、東アジアの共通教育システムの構築を目指す。

(Starat-up Conference 2012年3月)

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

1 東アジア共通の教育体系確立

教育方法を相互に調整・改善し、最終的には東アジア共通の教育体系の確立を目指す。さらに、ジョイントディグリー制度を導入し、複数大学による共同指導を実質化する。

2 課題解決型の人材育成

共通善の実現に貢献できる人材を育成するための、日中韓に共通する課題に対応した課題解決型の演習、地域の自治体や企業との協働教育プログラムを取り入れる。

3 成績管理、単位の相互認定制度

共通教育を検討する委員会を設け、評価方法や講義の内容、単位の相互認定に関し「ラーニングアグリメント」を締結する。さらに、ピアレビュー制度を導入し、の授業の質を高めると同時に、相互に教育の経験を交換する。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

(成均館大学校SS/SV派遣学生 2012年2月)



1 実施した交流プログラムの概要

Start-up Conferenceで3校の事業内容が確認された。岡山大学からは吉林大学、成均館大学校に学生を派遣し、また成均館大学校から留学生を受け入れた。

2 予定される交流プログラムの準備状況

H24から長期留学、SS/SVに加えてサマー・セミナーが開始される。また、共通科目の設置、共通教科書作成、ナノ・バイオコースの開設が準備される。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

1 日本人学生の派遣

岡山大学からは、毎年吉林大学、成均館大学に長期(1年)各5名、ジョイント・サマーセミナー各10名を含む40~50名の院生、学生を派遣する。

2 外国人留学生の受入れ

吉林大学、成均館大学からは、毎年長期(1年)各5名、ジョイント・サマーセミナー各15名を含む50名以上の院生、学生を受け入れる。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本への受入	C 0,K12	C20,K32	C31,K43	C27,K39	C27,K39
中国への受入	J14,K 4	J25,K15	J25,K15	J32,K15	J27,K15
韓国への受入	J 5,C 5	J17,C 5	J17,C 5	J19,C 5	J24,C 5

注) H23は実績、H24以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

1 日本人留学生の送り出し

吉林大学、成均館大学に岡山大学のランチオフィスを置き、研究テーマのマッチング、留学手続きなどがスムーズに行われるよう支援する。また、留学予定者に対する語学、東アジア文化論、異文化コミュニケーション論教育を強化する。

2 中国人、韓国人留学生の受け入れ

ランチオフィスでワンストップサービスを実現する。また、オンライン指導システムを構築する。岡山大学内では、宿舎、奨学金充実のほか、チューター制度、ランゲージカフェを通じたサポート体制を充実させる。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

外部評価制度と成果の公表

インターナショナルレビュー・ボード(外部評価委員会)を設置し、教育内容の検証を行うとともに、教育システム構築の成果をホームページ等を通じて積極的に公表する。

大学の世界展開力強化事業 取組概要 岡山大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム。

【プログラムの目的・養成する人材像】

国際的な視野を持ち、現代の課題を共有し、東アジア共通の伝統的教養や地域の文化に精通した行政、医療、環境、生産などの多分野にわたって三国の協業をリードできる知的リーダーを育成する。

【構想の概要】

岡山大学、吉林大学、成均館大学校が、アジア共通の価値観形成と次世代の中核的人材育成を目指し、深い伝統的な教養をもったアジアクラット(アジアの共通善に資する地域行政、民間組織の指導者)、地域医療をリードする医療人、三国の協業をリードできる企業中堅幹部候補等の輩出を目指す。同時に、東アジアの共通教育システムの構築を目指す。

◆ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

1 共通教科書の編纂

東アジアを拠点にグローバルに活躍する人材を育成するためには、まず日中韓の相互理解と共通課題への認識を持つことが必要であり、その目的で共通善教育研究会での議論を積み重ね、共通教科書を編纂した。

2 共通教育科目の充実

相互に履修できる科目の充実、履修しやすい環境の整備(英語科目の充実)、独自に用意したキャンパス・アジア科目の充実、フィールドワーク型プログラムの充実等、グローバル化にも対応した科目群を開講している。

3 インタラクティブな教育の実現

講師の相互派遣、複数大学の教授による院生指導、WEBによる双方向授業の実験などを積み重ね、実質的な共同教育の実現を図った。また、参加学生の声を取り入れて教育プログラムを充実させた。



〈成果物〉

◆ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

1 実施した交流プログラム

学生派遣・受入の実施、履修科目の充実、単位互換制度の整備、サマーセミナー、リージョナルカンファレンス、まちなかキャンパスによる地域との交流、共通教科書に基づく教育、学生フォーラム、ワークショップ、講演会、留学支援セミナーの実施、ナノバイオコースの立ち上げ、キャンパスアジアカフェの開設等。

〈2013.3 中韓留学ワークショップ〉



2 予定される交流プログラムの準備状況

サマースクールの拡大、共通科目の充実、共通教科書シリーズの編纂、ナノバイオコースの拡大、インターシップの充実、派遣前後教育プログラムの強化、学生主体の活動計画、共同学位の実施に向けた三方調整。

◆ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

1 日本人学生の派遣

平成24年度までに、本学から協定校に長期20名、SV 80名、計100名の院生・学部生を派遣した。

2 外国人留学生の受入れ

平成24年度までに、協定校から長期11名、SS 34名、計45名の院生・学部生を受け入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C0, K12	C6, K27	C34, K33	C24, K43	C34, K33
中国(C)での受入	J14, K4	J34, K15	J32, K15	J37, K15	J37, K15
韓国(K)での受入	J5, C5	J47, C5	J37, C5	J32, C5	J32, C5

注)H23・H24は実績、H25以降は計画。

◆ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

1 日本人留学生の送り出し

語学力アップのための派遣前後教育プログラム立ち上げ、派遣学生掘り起こしの中韓留学ワークショップ実施、留学中履修科目のスムーズな単位互換制度の整備、キャンパスアジアカフェの開設、iPadによる遠隔指導に取り組んだ。

2 中国人、韓国人留学生の受け入れ

魅力のあるキャンパスアジア科目の充実、キャンパスにとどまらない地域連携ワークショップの企画、来日留学生に対するチューターの配置、言語教育サポートの強化、シェアハウス設置による日中韓学生の生活交流の充実に取り組んだ。

〈キャンパスアジアの参加学生〉



◆ 教育内容の可視化・成果の普及

キャンパスアジア科目シラバスの充実とネットによる公表で可視化を図った。教員主体の教育研究報告集、学生主催の報告会、学生留学報告集などを通じた教育研究および教育成果を積極的に公表した。HPの開設、ソーシャルネットワーク(FB)、学内の専用掲示板の設置、パンフレット、ポスター、等により広報を強化した。これらの活動は、学生発のキャンパスアジアサークルの立ち上げ、三国学生応募者の増加、地域からの協力、国際的交流の拡大に繋がった。また、独自に外部評価を実施した。

大学の世界展開力強化事業 取組概要 岡山大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプAー I CAMPUS Asia Pilot Program))

東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム。

【プログラムの目的・養成する人材像】

国際的な視野を持ち、現代の課題を共有し、東アジア共通の伝統的教養や地域の文化に精通した行政、医療、環境、生産などの多分野にわたって三国の協業をリードできる知的リーダーを育成する。

【構想の概要】

岡山大学、吉林大学、成均館大学校が、アジア共通の価値観形成と次世代の中核的人材育成を目指し、深い伝統的な教養をもったアジアクラット(アジアの共通善に資する地域行政、民間組織の指導者)、地域医療をリードする医療人、三国の協業をリードできる企業中堅幹部候補等の輩出を目指す。同時に、東アジアの共通教育システムの構築を目指す。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

(サマースクール2013グループディスカッション)

○ 共通善教育の深化と発展的人材育成

3校の2年以上にわたる研究会の成果として集大成した、共通善を柱としたCA科目群を構築。体系的、分野横断的なマトリックスを完成。各校の長所を生かした教育体制を実現。

○ 3国教育連携の強化と実験教室の充実

3校の個性を生かしつつ、トライアングル教育システムを強化。実践知(phronesis)教育を基本とした教育を充実し、マルチリンガルワークショップを実験的に導入。

○ 理系学生も交流できるきめ細かなプログラム ナノバイオコースがスタート

人文・社会科学学生向けのプログラムに並んで、自然系学生のためのワークショップ、医歯薬系学生のためのナノ・バイオコースなど、全学の学生が国際交流できる環境を整えた。さらに、文理融合型のプログラムを拡充した。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

(2014.2 中韓留学ワークショップ2014 日中学生交流)

○ 東アジア型グローバル教養教育システムの確立

サマーセミナー、短期語学研修、中韓留学ワークショップ、共通教科書の編纂、共通善講演会の実施、ナノバイオコースなど、これまで積み重ねてきたプログラムを「東アジア型グローバル教養教育システム」として体系化した。

○ 実践知教育実現のための実験教室

学生フォーラム、リージョナルカンファレンス、まちなかキャンパス、中韓留学ワークショップ等の授業で、東アジアに共通の課題を設定し、マルチリンガルワークショップなど実験的な授業方式を取り入れながらプログラムを展開している。

○ プログラムを持続的に発展させる枠組み作り

2年後の運営体制を念頭に、これまでのプログラムをジョイント・ディグリー、国際共同大学院に発展的に解消する準備を進めている。また、CA学生クラブ、CA学生同窓会の立ち上げ等、学生の交流が持続的に行えるシステムを整備している。



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣 (延べ約180名達成)

平成25年度までに、本学から協定校に長期30名、SV 149名、計179名の院生・学部生を派遣した。

○ 外国人留学生の受入れ (延べ約130名達成)

平成25年度までに、協定校から長期30名、SS 101名、計131名の院生・学部生を受け入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C0, K12	C6, K27	C37, K49	C24, K43	C34, K33
中国(C)での受入	J14, K4	J34, K15	J36, K7	J37, K15	J37, K15
韓国(K)での受入	J5, C5	J47, C5	J43, C17	J32, C5	J32, C5

注)H23~H25は実績、H26以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人留学生の送り出し

語学力アップのための派遣前後教育プログラムの充実、派遣学生の開拓と共通善教育の導入としての中韓留学ワークショップの実施、留学中履修した科目のスムーズな単位互換制度の整備、iPadによる遠隔教育指導に一貫して取り組んでいる。

○ 中国人、韓国人留学生の受け入れ

CA科目の豊富化と体系化、キャンパスをこえた地域連携ワークショップの企画、来日留学生に対するチューターの配置、言語教育サポートの強化、シェアハウスの充実、地域活動参加による日中韓学生の生活交流の充実に取り組んでいる。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ HP等による情報発信と各種報告書による成果の普及

教育内容は、取り組みごとにレポートを作成し、印刷物およびWEBで発信している。また、外部評価に基づいた点検作業も継続的に進められている。広報活動については、岡山大学キャンパス・アジアのホームページ (<http://campus-asia.csv.okayama-u.ac.jp/>) で、教育、制度構築の情報を詳細に発信している。

また、Facebook (<https://www.facebook.com/CAMPUSAsia.okayama/>) で、日々の活動をタイムリーに発信している。

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

国際的な視野を持ち、現代の課題を共有し、東アジア共通の伝統的教養や地域の文化に精通した行政、医療、環境、生産などの多分野にわたって三国の協業をリードできる知的リーダーを育成する。

【構想の概要】

岡山大学、吉林大学、成均館大学校が、アジア共通の価値観形成と次世代の中核的人材育成を目指し、深い伝統的な教養をもったアジアクラット(アジアの共通善に資する地域行政、民間組織の指導者)、地域医療をリードする医療人、三国の協業をリードできる企業中堅幹部候補等の輩出を目指す。同時に、東アジアの共通教育システムの構築を目指す。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

〈三国教員が協同で編纂した共通教科書〉

○ 共通善教育の深化と発展的人材育成

3校の2年以上にわたる研究会の成果として集大成した、共通善を柱とした科目群を構築。体系的、分野横断的なマトリックスを完成。共通善共通教科書の出版・利用促進。

○ 実験教室等の充実と単位化

共通善多言語セミナー、キャンパスアジア総合演習、サマースクール、短期語学研修、中韓ワークショップなどの内容を充実し、これら共通善教育担当教員の独自の取り組みを単位化。

○ 理系学生も交流できるきめ細かなプログラムづくり

人文・社会科学学生向けのメニューに並んで、自然系学生のためのワークショップ、医歯薬系学生のためのナノ・バイオコースなど、あらゆる分野の学生が国際交流できる環境を構築。さらに、文理融合型のプログラムを実施。

〈若手医師トレーニングプログラム〉

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

○ 東アジア型グローバル教養教育システムの確立

現地語学習の強化をベースとした多言語セミナー、サマースクール、中韓ワークショップ、まちなかキャンパス、異文化理解講義、ナノバイオコース、自然系ワークショップなど、PBL・CBL (Community Based Learning) を基礎とした授業群を「東アジア型グローバル教養教育システム」として体系化し、教育モデルづくりをさらに一歩前進させた。

○ 国際共同大学院設立に向けた準備

社会科学系、教育系、自然科学系、医歯薬系におけるダブル・ディグリーを締結し、ジョイント・ディグリーの交渉を進展させ、また共同プログラムを積み重ねることによって、国際共同大学院設立に向けた基盤づくりを行った。

○ プログラムを持続的に発展させる枠組み作り

事業を安定的に継続させるため、事業拡大の方向性の明確化(グローバル教養教育の充実、教科書編纂の継続、ナノ・バイオコースの国際若手医師トレーニングプログラムへの進化)、岡山大学で取り組んできた他の国際交流事業との融合、に取り組んだ。



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣 (延べ約 275名達成)

平成26年度までに、本学から協定校に長期 40名、SV 235名、計275名の院生・学部生を派遣した。

○ 外国人留学生の受入れ (延べ約 183名達成)

平成26年度までに、協定校から長期51名、SS 132名、計183名の院生・学部生を受け入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C0, K12	C6, K27	C37, K49	C21, K31	C34, K33
中国(C)での受入	J14, K4	J34, K15	J36, K7	J47, K7	J37, K15
韓国(K)での受入	J5, C5	J47, C5	J43, C17	J49, C10	J32, C5

注) H23~H26は実績、H27以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人留学生の送り出し

語学力アップのための派遣前後教育・地域と連携する短期プログラムの充実、派遣学生掘り起こしのための中韓ワークショップ実施、留学中履修した科目のスムーズな単位互換制度の整備、マンスリーレポート制度の導入やiPadによる遠隔教育指導に取り組んだ。

○ 中国人、韓国人留学生の受け入れ

キャンパスアジア科目の豊富化と体系化、キャンパスを超えた地域連携型ワークショップの実施、他大学CA学生との交流、チューターの配置、学生クラブのサポート、言語教育サポートの強化、シェアハウスの充実、地域活動参加などによる留学生生活の充実に取り組んだ。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

○ HP等による情報発信と各種報告書による成果の普及

教育内容は、取り組みごとにレポートを作成し、印刷物およびホームページ(<http://campus-asia.ccsv.okayama-u.ac.jp/>)を利用して、情報を発信している。その他、Facebook (<https://www.facebook.com/CAMPUSAsia.okayama>) を通じて、学生活動、教育内容、制度構築等に関わる日々の活動をタイムリーに発信している。今年度、学生は独自に情報発信するCA学生新聞「ハレジア」を計画し、年4回発刊する予定。また、内部・外部評価に基づいた点検作業も継続的に進められ、事業実施内容の深化を図った。

大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 岡山大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

国際的な視野を持ち、現代の課題を共有し、東アジア共通の伝統的教養や地域の文化に精通した行政、医療、環境、生産などの多分野にわたって三国の協業をリードできる知的リーダーを育成する。

【構想の概要】

岡山大学、吉林大学、成均館大学校が、アジア共通の価値観形成と次世代の中核的人材育成を目指し、深い伝統的な教養をもったアジアクラフト(アジアの共通善に資する地域行政、民間組織の指導者)、地域医療をリードする医療人、三国の協業をリードできる企業中堅幹部候補等の輩出を目指す。同時に、東アジアの共通教育システムの構築を目指す。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 東アジア型グローバル教養教育システムの確立

3校の特徴的な授業群を「東アジア型グローバル教養教育システム」として体系化した。岡山大学においては、現地語学習の強化をベースとした多言語セミナー、サマースクール、中韓ワークショップ、まちなかキャンパス、異文化理解講義、ナノバイオコース、自然系ワークショップなど、PBL・CBL(Community Based Learning)を基礎とした教育プログラムを充実させた。

○ 日中韓共通教科書の作成とその活用

現代東アジア経済の現状と展望について議論する素材となる共通教科書、東アジアの伝統と思想、共通の価値観などを考える共通教科書などを発刊し、広く活用した。

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈成果報告国際シンポジウム〉



○ 高いモビリティの達成

5年間の事業実施期間を通じ、岡山大学は562名の長・短期派遣・受入を達成した。また、延べ1,200名の学生が、キャンパス・アジアプログラムに参加した。

○ キャンパス・アジア成果報告国際シンポジウム

5年間の活動の成果と、その活動の中から獲得した特筆すべき取り組み、確立された共通教育モデルを、広く高等教育現場で共有するため、3校の関係者、国内外関係者、学生を集めて国際シンポジウムが開催された。

○ 学位授与制度の整備と国際共同大学院の設立

これまで、ダブル・ディグリー協定の拡充、ジョイント・ディグリー協定の準備を進めてきたが、さらに国際共同大学院の設立を展望しながら共同教育の制度整備を図っていきたい。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣(延べ約322名達成)

平成27年度までに、本学から協定校に長期47名、ショートビジット275名、計322名の院生・学部生を派遣した。

○ 外国人留学生の受入れ(延べ約240名達成)

平成27年度までに、協定校から長期67名、ショートステイ173名、計240名の院生・学部生を受け入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C0, K12	C6, K27	C37, K49	C21, K29	C26, K33
中国(C)での受入	J14, K4	J34, K15	J36, K7	J47, K7	J16, K8
韓国(K)での受入	J5, C5	J47, C5	J43, C17	J49, C10	J31, C5

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人留学生の送り出し

語学力アップのための派遣前後教育・地域と連携する短期プログラムの充実、派遣学生掘り起こしのための中韓ワークショップ実施、留学中履修した科目のスムーズな単位互換制度の整備、マンスリーレポート制度の導入やiPadによる遠隔教育指導に取り組んだ。

○ 中国人、韓国人留学生の受け入れ

キャンパスアジア科目の豊富化と体系化、キャンパスを超えた地域連携型ワークショップの実施、他大学CA学生との交流、チューターの配置、学生クラブのサポート、言語教育サポートの強化、シェアハウスの充実、地域活動参加などによる留学生生活の充実に取り組んだ。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況情報の公開・成果の普及

○ HP等による情報発信と各種報告書による成果の普及

教育内容は、取り組みごとにレポートを作成し、印刷物およびホームページ(<http://campus-asia.ccsv.okayama-u.ac.jp/>)を利用して、情報を発信している。その他、多種多様なSNSを通じて、学生活動、教育内容、制度構築等に関わる日々の活動をタイムリーに発信し、パートナー校との情報交換もタイムリーに行われている。

今年度、学生が独自に情報発信するCA学生新聞「ハレジア」は4回発行された。また、5年間の成果をまとめた『キャンパス・アジア事業成果最終報告書 The Five-Year Experience and a New Horizon for Cooperation』を発行した。

〈修了証を授与された留学生たち〉

